

つどい

平成30年茨城県戦没者慰霊祭

茨城偕行会事務局長

佐々木克徳（陸自71）

茨城県偕行会は、8月15日茨城県護国

神社で実施された終戦記念祭に参加した。本行事は、「戦没者を追悼し、平和を祈念する日」として行われ慰霊顕彰の実と会目的を認識する好機であり、広く会員に案内した。お盆や靖國神社の行事と重なったにもかかわらず、福井正躬（陸自60）、大高哲男（陸自66）両副会長をはじめとする元幹部自衛官会員、賛助会員等15名が参加した。

地元水戸地区の他、県南、県西、鹿行地区からも参加者があり、会として一体感のある行事となった。

護国神社に集合した参加者は、「国立追悼施設の建設に反対する署名活動」に記帳後、待機場所の参集殿に案内されたが、休息の合間に「さくら山遺品館」や終戦記念企画として実施されていた「従軍画家木村勝氏」の素描展を鑑賞した。

今回の戦没者慰霊祭には、主催団体の英霊にこたえる会茨城県本部のほか、護国神社総代会や崇敬奉賛会の関係者を含め60名を超える参列者があり、ほぼ満員の拝殿に着席して開始の時を待った。

慰霊祭は11:30に始まり、修祓、献饌、祝詞奏上、祭文奏上、鈴祓いの儀と続く。途中、全国戦没者追悼式に移行、本殿内に流されたラジオ放送で安倍総理の式辞を拝聴。正午の時報に合わせて全員で黙祷を行った後、天皇陛下の御言葉を拝聴した。その後、献茶、玉串拝礼、号鼓、宮司一拝をもって滞りなく全ての慰霊祭

行事を終了した。

慰霊祭終了後、佐藤宮司の挨拶に続いて崇敬奉賛会代表の橋本昌元茨城県知事より、本行事の重要性和継統の大切さについて挨拶があった。

戦没英霊に献杯の後、案内された参集殿において厳かな中に清々しい気持ちで直会の昼食をいただき、来年度の再会を約してそれぞれ帰途についた。

前出以外の本行事への参加者は以下のとおり。（敬称略）

小林真臣（陸自66）、森房正和（陸自68）、森房令夫人、山根峯治（陸自70）、太田保重（陸自71）、佐々木克徳（陸自71）、和知勲（陸自72）、坂本憲昭（陸自75）、坪沼浩（陸自01）、荻沼藏次（准陸尉）、大川豊（陸事務官）、斎藤勝彦（陸事務官）、永井勇（賛助）

